

## ふわふわ言葉のシャワーをいっぱいあびて

学校長 大竹 貴子



学校の西側の紅梅が満開になり、寒さに震えながら登校する子どもたちを迎えています。本格的な寒さが続く中、本校ではインフルエンザが猛威を振るい、2学級が学級閉鎖となりました。今週も各学年でインフルエンザでの欠席者がおりますので、手洗い・うがいの励行や定期的な換気に努めてまいります。皆様もどうぞ体調管理にお気をつけください。

さて、本校の1階には6年生が各学年に呼びかけて集めた「ふわふわ言葉の木」が掲示してあります。「ふわふわ言葉」とは言われてうれしい、心が温くなる言葉のことです。反対に言われて悲しくなる、心が傷つく言葉を「ちくちく言葉」と言います。

十年ほど前に勤務していた学校で、保健委員会の子どもたちが同じように「ふわふわ言葉を増やそう」という取組をしました。そのときに、養護教諭がある実験をしました。2つのふた付きのガラス瓶にそれぞれ一口くらいの量のご飯を入れ、1つの瓶には「おいしそうだね」「好きだよ」などのふわふわ言葉を、もう片方の瓶には「まずそうだね」「きたない」「きれい」などのちくちく言葉を1か月間呼びかけるというものでした。その実験をすると聞いたとき、私は「まさか違いが出るわけない」と心の中で思っていました。ところが1か月後、ふわふわ言葉をかけ続けた瓶のご飯はほとんど変化していなかったのに比べ、ちくちく言葉をかけ続けた瓶のご飯はカビだらけになっていたのです。いまだに半信半疑ではありますが、その時の驚きは忘れられません。また、植物を育てるときにも優しい声をかけた方がよく育つという実験結果もあります。ご飯や植物ですら違いがでるのですから、言葉が子どもたちの心にも与える影響の大きさは計り知れません。

子どもたちの中には、「うるせえ」「どけ」のような言葉遣いがくせのようになっていたり、深く考えず冗談のつもりで悪口を言ってしまったりすることがあります。正義感からよかれと思って注意した言葉がとてもきついということもあります。私たち大人の言葉遣いも子どもたちにとって大きな言語環境です。日々、子どもたちが生活する中で交わされる会話が、同じ内容を伝える場合でも強い口調でなく相手の気持ちを考えた柔らかい表現になってくると、言われた子どもたちも安心し、全ての子どもたちが穏やかに心豊かに成長していけるのではないのでしょうか。

そこで、相手の気持ちを意識しふわふわ言葉で話すきっかけとなるよう、先日の朝会で児童指導専任教諭が、友達の名前を呼ぶとき、「〇〇さん」と言おうと話しました。親しみの気持ちであだ名や下の名前を呼び捨てで呼ぶことがあります。が、「◇ちゃん」「□君」でもよいので、少なくとも呼び捨てをなくすことにより、言葉遣いが柔らかい雰囲気になるのではないかと考えます。ぜひご家庭でも、友達のことを呼び捨てで話していることがありましたら、さりげなく「〇〇さんだよ」とお声をかけてくださるとありがたいです。どの子どもも、ふわふわ言葉のシャワーをたくさんあびて、すくすくと伸びやかに育ってほしいと願っています。どうぞよろしく願いいたします。

### 下校時や放課後の子どもたちの見守りをお願いいたします！

残念なことに、先日の夕方、自転車に乗っていた本校児童が、交差点で自動車と接触し足を骨折するという事故がありました。本校学区は狭い道が多いので、気をつけてほしいと思います。また、自ら車道に飛び出す遊びをする児童を見かけたという情報もいただきました。学校でも指導していきたいと思っております。横須賀の方では、不審者による痛ましい事件もありました。放課後もお時間がありましたら、ご自宅の前などで子どもたちの様子を見守ってくださいますようお願いいたします。